## 「Possible Delivery」機能とは何ですか。

## 目次

質問

回答

## 質問

「Possible Delivery」機能とは何ですか。

## 回答

可能性のある配信機能がイネーブルになっているとき、AsyncOS は「可能性のある配信」としてメッセージの本文が提供されたが後、受信者のホストがメッセージの受信を確認する前に時間を計る場合メッセージを扱います。 この機能性は受信者のホストの連続的なエラーが受信の確認応答を防ぐ場合受信者がメッセージのマルチプルコピーを受け取ることを防ぎます。 AsyncOS はメール ログの可能性のある配信としてこの受信者を記録し、完了されるようにメッセージを数えます。

```
myesa.local> deliveryconfig
Default interface to deliver mail: Auto
"Possible Delivery": Enabled
Default system wide maximum outbound message delivery
concurrency: 10000
Default system wide TLS maximum outbound message delivery
concurrency: 100
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure mail delivery.
[]> setup
Choose the default interface to deliver mail.
2. Management (192.168.0.199/24: myesa.local)
[1]>
Enable "Possible Delivery" (recommended)? [Y]>
Please enter the default system wide maximum outbound message
delivery concurrency.
[10000]>
```

Please enter the default system wide TLS maximum outbound message

delivery concurrency.

[100]>

タイムアウトは TCP タイムアウト、普通 5 分です。 SMTP は 4 分の前にタイムアウト。

この機能が無効である場合、E メール セキュリティ アプライアンス(ESA)はメッセージを送り直すことを試みます。 機能がイネーブルになっている場合、メッセージは渡されるように見られます。